

動き出す,わたしのワカモノガタリ

- 目次 -

■なぜ今,“若者が語ること”が大事なのだろう?	p.1
■開催概要	p.2
■全体会 わたしにとってのコミュニティ ～見つけよう!私の大切な場所～	p.3
■全体会総括 コミュニティを語るなかで見えてきたこと	p.5
■セミナー 若者が語る わたしの働きマインド	p.7
■働き方についての二つの提案	p.8
■トークフリマ&フィールプレイス	p.9
■座談会	p.11
■アンケート結果	p.13
■Album ～豊の樹～	p.15
■参加協力団体一覧	p.16
■Column ～司会の高校生とこたつトーク～	p.17

なぜ今,“若者が語ること”が大事なのだろう?

ユースサービス協会が継続して開催している,ユースシンポジウムの昨年のテーマは「若者が語ること」でした。では,なぜ今「若者が語ること」を大事だと考えたのか?そこにはいろいろな考え方や社会状況の見方がありましたが,やはり大きいと思ったのは,今「若者が自分を語る場がないのではないか?」という思いでした。

これだけ豊かで自由な表現が許されている社会(?)で,若者が自分を語れないなんて,そんなはずはない。そう思われる人は多いのではないかと思います。多くの若者と接していて感じるのは,自分のことを自分の言葉で語る・語れる若者が少ないということです。集団の中でとても楽しそうに語らう若者,2~3人で固まって親密そうに話している若者,飲み会などではしゃぎながらしゃべる若者...どれを見ても,豊穡に自分を語る場になっているように思うのですが,よく見ていると,彼ら/彼女らはほとんどの場合,自分のことを深く語ることを避けているように感じるのは,自分のことを話すと他の人が迷惑がるのではないか?「引いてしまう」のじゃないか,うっとうしいと思われんじゃないか,などと一線を互いに引いているように思えます。そして,結局,自分のことを語らないのです。その究極はこんな言葉に表れています。「私は就活で,嘘をつくことを覚えました」。

では若者は語りたくないのだろうか。そんなことはないと思います。語ることができる場,語るに足る相手があれば語り出すのです。そう信じてユースシンポジウムでは昨年度に続いて,トークフリマやトークにとどまらない動きを使って表現する場,グループで聴き話す場などの仕掛けを作りました。それらの場で,実際にどのように,若者は自分を語ったのか。ぜひ,この「報告書」を読んでいただき確かめていただければと思います。

事業部長 水野篤夫